
零崎月緒の人間関係

壱。

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

零崎月緒の人間関係

【Nコード】

N1486U

【作者名】

雫。

【あらすじ】

零崎一賊。それは殺し名第三位の殺人鬼の一賊。

と、全く同じ名前を持つ少女、零崎月緒。二つ名持ち、武器所持、普段着は澄百合学園の制服・・・そんな彼女の正体は？

なーんて、ただの月並みな迷子だったりするんだよねこれが！な物語。

第0話（前書き）

小説を書くのはこれが初めてで、初投稿です。
よろしくおねがいします。

第0話

私の名前は、ぜろなつきち零崎月緒。

この名前を聞いて、お前はどこぞの殺人鬼か、とツツコンでくれる人がいるなら、是非お友達になってもらいたい。戯言シリーズを語れる知り合いがないんだ。

零崎・・・そう、あの殺人鬼の一賊と同じ零崎。
読み方も漢字もまるつきり同じ零崎。

私は戯言シリーズ、人間シリーズが大好きなのでこの名前も気に入っているんだけど
偽名だと思われるので少し困っていたりする。

そして、月緒という名前。
確か、零崎としての名前以外を持っているのは人識君と軋識さんと舞織ちゃん。
この三人、としき、きしき、いおり。それぞれ一文字足すと零崎名になる。

私の名前月緒も、り、を最後に足すとあら不思議。つきおりになるのだ。

つまり零崎月織。

もはや神様が親の策略としか思えなくなってくる。
神様は八百万説を信じてるし、両親は事故でもういないんだけどね。

ぴぴぴぴぴぴ

ん、電話？

ぴぴぴぴ

『はい、もしもしー・・・』　ブツッ！

うおわっ　耳に響くな・・・きられた。なんなんだまったく。

『・・・え？』

どこですかここ、なんですかこれ、ついでに私は誰ですか。あ、え、いや、

記憶がありますごめんなさい。って私だれに話しかけてるんだ、って、

あああ混乱してるな私。キャラクターがブレまくってる。

・・・英単語の意味調べ！ただし使えるのは漢字字典のみ！みたいなっ！

駄目だ。難しいなこの言い回し。巫女子ちゃん凄い。いや西尾さんが凄いのか。

だつてさ、

電話きられて、瞬きした瞬間に全く知らない土地に居て、見たことない服を着てて、

背中に入っているか想像もつかないくらい重い・・・リュック？を

背負ってて。

そんな状況に陥ったら誰でもパニックになるだろう。

・
・
・
・
・
誰か説明を。

第0話（後書き）

読んで下さりありがとうございました。

私は戯言、人間シリーズをすべて読めていないので、話の内容はほぼオリジナルになるとと思いますが、これからも読んでくださると嬉しいです。

第一話（前書き）

これが第一話となります
つたない文章ですがよろしく願います

第一話

・・・やつと落ち着いてきた。

ここはどこかの公園らしい。人っ子一人居やしないけど・・・なんか怖い。

狭くもなく広くもなく。月並みな公園だと思う。

とりあえずベンチに腰掛ける。隣にリュックもおろしておく。重っ。

リュックはランドセル3個分くらいのかかなり大きいもので、肩にかける部分も頑丈に作られている。

色は黒で金具は金。ポケットなどがブロックチェック柄。

月モチーフのチャームもついている。私の名前からか？

気に入ったけどなんで背負っていたのかわからない・・・いつからだ？

中身を見してみる。うわっ、バックinバック多すぎないかこれ。

バックの中身は、さらに小さなバックや袋などで細かく分けられているようだ。

中をぐそぐそ探っていると、何か硬いものに触れた。

『なんだこれ・・・』

鋸のこぎりだった。

黒い革のカバーで覆われた、40cmくらいの鋸。

カバーから出すと、金色の刃。金、というよりは・・・もっと淡い・・・月色か？

持ち手は黒でゴツめ。

うん、かっこいい。かなり鋭そうだし危ないけど。

まあ何故こんなものを持っているのかは今は考えないでおこう。

．．．．．んん？

今凄い違和感があった気がする。

．．．髪だ。

私の髪は長いので下のほうで二つくりになっている。それには変わらないのだが．．．

髪の色が違った。金．．．？え、え？あ、黒も混じってる。

．．．嘘だろ。

あー、やっぱりこれは夢なんだな。

夢遊病とか誘拐とかかなーとか考えてたんだけど、やっぱり夢だよな。知らない場所知らない服知らない持ち物知らない髪色。ほら夢だわ。

バチッ

『つた．．．！』

早く目覚めたくて強く右頬をたたく。痛いだけだった。嘘だろ．．．？！

え、じゃあなんなんだコレは。

ちよつと怖くなってきたんだが。

服も違うし．．．

深いスリットがあつて、それが網目状にふさがれているスカート

上は・・・セーラー服？

袖もスカートと同じ網目状になっている。

大きいスカーフと大きいボタン。

見たことあるぞこのセーラー服・・・！

首吊・・・澄百合学園高等部の制服じゃないか！

ええええ、じゃあ私、今野外でコスプレしてる人？

うわぁ痛い！

どうか誰も来ないでくれ！

こんなに荷物があるんだから、着替えとか入ってるハズだし！
公園のトイレとかで着替えれるかも！

がさがさとリュックを漁る。

ああもうなんでこんなに小分けされてるの・・・！！

「そこで何してんだ？」

・・・え？

さっきまで誰もいなかった、よねえ？

なのに、なんで、

真っ赤な女の人が、立っているんでしょう・・・？

第一話（後書き）

読んで下さりありがとうございます
亀更新ですが頑張ります

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1486u/>

零崎月緒の人間関係

2011年9月21日18時16分発行